



収穫した野菜でお昼ご飯の楽しいひととき

Contents

〈気軽に誰もが集える居場所〉
より処 ははこ草

〈とみさとの魅力みつけた！〉
中沢稻荷神社 湯立神事

障害のある人も無い人も一緒になって畑で働き、ご飯を作って食べて交流する場。

気軽に誰もが集える居場所「より処 ははこ草」取材しました。

持ち前の明るさと行動力でスタート

富里市南部、旧洗心小学校のすぐ近くにある花苗農家の鈴木さんの広大な敷地の一角が「より処 ははこ草」の活動拠点です。そこを畑にして様々な作物を育て、採れたて新鮮な野菜で昼食を作り、交流しています。

代表を務めているのは平野静江さん。

「富里市精神障がい者家族会 サルビアの会」の代表でもある平野さんは、精神障害を持った方やその家族の話し合いの場、精神の病気について学ぶ場を作ってきました。

誰もが気兼ねなく行ける場を作ろうと思ったきっかけは、その中で聴いた「障害を持っていると行くところがなくて、家に引きこもってしまうんだよね」という参加者の声でした。

令和3年に、とみさと市民活動サポートセンターで実施した全4回の「まちづくりサポーター養成講座」に参加し、講義や企画書作りを通して新しい活動への道筋が固まりました。確かな手ごたえを感じたのは、第3回目の講座です。自分が思い描く地域活動の姿を文字にして参加者同士が共有する中で、それぞれの熱い思いに刺激を受け、自信を持って前へ進み団体立上げへと向かいました。

平野さんの持ち前の明るさと行動力で活動場所や運営の協力者を集め、令和4年5月に「より処 ははこ草」が誕生しました。活動日は毎週水曜日の午前10時から午後2時頃まで。畑の草刈りや土づくり、種をまいたり収穫したりと臨機応変に作業をします。



畑の整備をするメンバー

「こうしなきゃいけないとかなないからね。好きな野菜の種をまいて、草刈りもできる人がやって、無理をしないようにしています。」

平野さんのモットーです。

毎週参加している50代の女性は、

「畑仕事で一番楽しいのは収穫ですね。その野菜をみんなで調理して食べるのも楽しいです。家だと昼は一人だけど、ここでは、みんなでおしゃべりしながら楽しく食べられるし。」

参加し始めた頃は、活動が終わって家に帰るとぐったりしていましたが、今では、覚えた料理を家で作るようになったそうです。出来上がったら写真を撮って平野さんにLINEで送っているとか。

「野菜の成長が見られるし、来るたびに変化もあるし、私にとってここはとても居心地が良く、気軽に来ることができる居場所です。」

この方にとって安心できる場であることが、言葉の端々から伺えました。

サポートセンターからのお知らせ



とみさと協働塾『はじめてのクラウドファンディング講座』を開催します！

今、活動資金を集める手段としてクラウドファンディングが注目されています。

具体的な手法を学んで、活動の幅を広げてみませんか。

日時

令和7年1月11日（土） 14：00～16：00

会場

とみさと市民活動サポートセンター
市民活動ブース

参加費

無料 お申込みはこちらから⇒



講師/ファンドレイザー
浅井美絵氏



肩ひじ張らない自然体の活動

収穫した野菜は自分たちが食べるだけではなく、富里市南部地域包括支援センターや立沢台自治会館で毎月開いている地域の居場所「おひさまカフェ」で販売しています。たくさん収穫できた時には、JA富里市 旬菜館の店先にも並ぶそうです。夏はキュウリ、ナス、ゴーヤ、かぼちゃ、秋は落花生、さつまいもなど、新鮮でおいしい野菜が並びます。お得意様もでき、「今度はこれ持ってきてね」と、リクエストもありやりがいにつながっています。売上は、昼食の食材や野菜の種、肥料等を買うための活動資金になっています。

「より処 ははこ草」では畑作業の他に、月に1度、イベントを開催しています。オカリナや馬頭琴の演奏会では、心に沁みわたる音色に酔いしれ、ポッチャ大会では一球投げるごとに歓声が沸き上がり、畑作業とはひと味違った交流の時間が流れます。

イベントには近所の高齢者やスタッフが大勢集まるので、大人数に対応できるように、昼食はたいていカレーライスです。大鍋にたっぷり煮込んだカレーは毎回大好評。



月に一度のイベントの様子



昼食の支度中

長年、障害を持っている方に寄り添われてきた平野さん。

「精神に障害を持っている人は、行こうと思っても玄関を出たら気持ちが変わってしまうこともあるからね。食事だけに来る人もいるし、2年半ぶりに来てくれた人もいるし、この場所を覚えていてくれただけで嬉しい。とにかく、楽しくできることが一番！」

肩ひじ張らない自然体の活動が、来る人の気持ちを穏やかにしています。

近年の猛暑で夏場は草刈りが追い付かず、作物なのか雑草なのか見わけがつかなかった畑も、今はそれなりの姿を現し、毎週の作業もはかどります。活動に賛同して草刈りをしてくれるボランティアの方も、大きな力となっています。

「草刈りだけでも、収穫だけでも、ご飯を作るだけでも、食べるだけでも何でもいいのよ。来るだけでもいいから。」

畑の真ん中で、平野さんが待っています。

サポートセンターからのお知らせ

まちづくり交流会 「富里のいいところを語りつくそう！」

「富里に住んで良かった」「富里のここが好き！」そんな話で盛り上がりましょう♪

日時

令和7年3月1日(土) 14:00~16:00

場所

とみさと市民活動サポートセンター
市民活動ブース

参加費

無料

◆当日はお茶やお菓子を用意してお待ちしています



昨年度の様子

中沢稲荷神社 中沢湯立神事

富里市中沢稲荷神社では、10月17日を「神社の祝日」と定め、毎年、秋の例祭が行われます。神前に据えられた大釜で煮え立たせたお湯に熊笹をくぐらせ、葉についた雫を氏子や参拝者に振りかけて一年の無病息災、家内安全を願う「湯立神事」が拝殿前で執り行われます。湯立神事に続き「中沢麦つき踊り」が奉納行事として披露されます。麦つき踊りは神前の大釜を中心に円を描くように歌（以前は即興でつくられていた）に合わせて麦をつく動作を取り入れた踊りで、富里市の民族文化財に指定されています。

かつて、富里では麦作が中心でした。当時の麦は歌にもあるように1,500回ほどつかないと食用にはならなかったそう。「農作業の辛さや男女の仲を即興で歌にして踊ることで収穫の喜びに変えていた」と麦つき踊り保存会会長の埜崎さんが話してくれました。



湯立神事

毎年、向台こども園の園児による愛くるしい踊りや、富里第一小学校児童による息の合ったパフォーマンスが祭事会場の空気を楽しく盛り上げてくれます。子どもの笑顔、エネルギーと地域の皆さんの温かな心の繋がりが大切なことだと改めて感じるひと時です。



中沢麦つき踊り

富里市民族文化財は3つあります。その中で現在まで引き継がれているのは、「久能の獅子舞」とこの「中沢麦つき踊り」です。中沢稲荷神社の筆頭総代をしている相川さんは、今後も地域のつながりを大切にしながら、代々受け継がれてきた大切な文化遺産をしていけたらと考えているそうです。

麦つき踊りの歌の一節を抜粋してみます。全ての歌詞が意味深くその時々的心情を表現しています。

♪つけたつけたよこの麦はつけたはずだよ千五百
♪踊りけすなよ夜明かしまでも 夜明けがらすの鳴くまでも 月のあかりにうらみはないが 忍ぶ恋路のじゃまになる
♪立沢、新橋のかえるでさえも中沢よいとこはねてくる

引用：富里市民族文化財調査報告書第3集

コーディネーターのひとりごと

いつもの変わらない毎日を送ることが、幸せな時間だと考えたり？とは言え？世の中は様々なことが起こり、生活スタイルの変化を考えねばならないことも多くなってきているのではないのでしょうか？人との出会い、関わり合いから自分の住む町の事を考えたいと改めて思っています。（あ）

SNSアカウント



<連絡先>とみさと市民活動サポートセンター
〒286-0292 千葉県富里市七栄652番地1(富里市役所 すこやかセンター1階)
■Tel/Fax:0476-93-4123 ■E-mail:tomisapo@bz04.plala.or.jp
登録団体数：91団体（12月1日現在）
年4回発行 発行部数：2500部 配布先：市内公共施設 他

